

天白区将来ビジョン

令和2年度～5年度



天白区役所

目次

1	策定の考え方	1
---	--------------	---

2	天白区を取り巻く状況	2
---	------------------	---

3	めざすべきまちの姿と施策	9
---	--------------------	---

施策 1	災害への備えを強力に進めます。	10
------	-----------------------	----

施策 2	犯罪のないまちづくりを進めます。	14
------	------------------------	----

施策 3	交通事故のないまちづくりを進めます。	16
------	--------------------------	----

施策 4	妊娠期から切れ目なく子育てを支援します。	18
------	----------------------------	----

施策 5	障害者が安心して暮らせるよう支援します。	20
------	----------------------------	----

施策 6	高齢者がいきいきと暮らせるよう支援します。	22
------	-----------------------------	----

施策 7	天白区の魅力を発信します。	24
------	---------------------	----

施策 8	地域と連携してまちづくりを進めます。	26
------	--------------------------	----

施策 9	快適な生活環境づくりを進めます。	28
------	------------------------	----

4	施策の推進にあたって	30
---	------------------	----

1 策定の考え方

1 趣旨

天白区将来ビジョンは、平成29年3月に名古屋市が策定した「区のあり方基本方針」に基づき、区を取り巻く社会状況の変化を踏まえ、めざすべき天白区の姿を明らかにするとともに、その実現に向けた中長期の取り組みを体系化するものです。

2 計画期間

天白区将来ビジョンは、令和2年度から5年度までの4年間を計画期間とします。

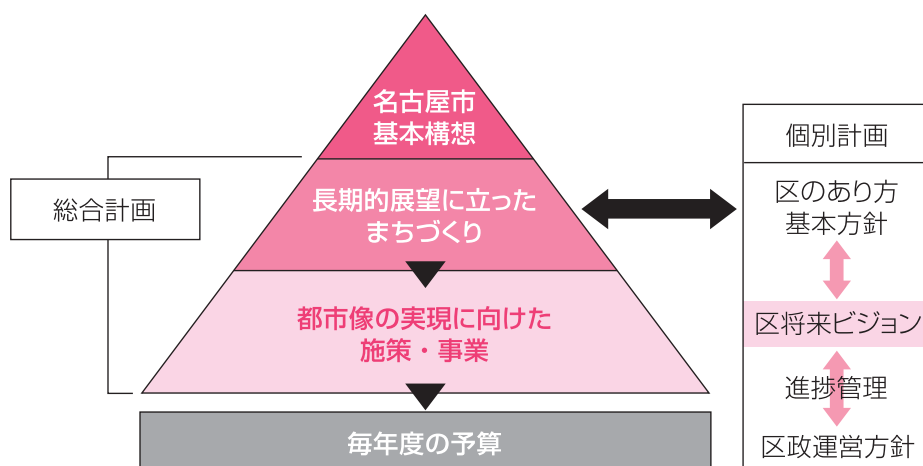
3 区政運営方針との関係

区将来ビジョンに掲げる施策を推進するための手段である事業については、毎年度の予算要求の中で検討した上で、その年度に実施するものを区政運営方針に掲載します。

また、めざすべきまちの姿の実現に向け、その達成状況を測る成果指標と令和5年度の目標値を区将来ビジョンの中で設定し、毎年度その結果を区政運営方針の中で明らかにすることによって進捗管理を行ってまいります。

4 名古屋市総合計画2023との関係

市政運営の指導理念である「名古屋市基本構想」のもと、令和12年（2030年）頃を見据えて本市がめざす都市像などを「長期的展望に立ったまちづくり」として示し、その実現のために必要な施策・事業を総合的・体系的にとりまとめたものが「名古屋市総合計画2023」です。区将来ビジョンは、この計画と整合を図って策定した個別計画です。



2 天白区を取り巻く状況

1 天白区の地勢

天白区は、名古屋市の東部丘陵地帯に位置し、東側は日進市、西側は昭和区・瑞穂区・南区、南側は緑区、北側は千種区・名東区と接しています。

区の中央部を横断する天白川は、北部から流れる植田川と区の中心部で合流し、区の南部を流れる郷下川とも緑区との区境の藤川を通じて合流します。天白川の流域は尾張丘陵の谷間にあたり、およそ7千年前には、伊勢湾の海水が奥深くまで入り込んだ「年魚市潟（あゆちがた）」と呼ばれる入り江でした。現在、河川敷の「天白川緑地」は四季を通じて区民の憩いの場となっていますが、今からおよそ250年前の明和4年（1767年）の大洪水では、天白川と植田川の合流する場所に集落の中心があった植田村の家々が流され、田畑まで失う被害が発生しました。また近年では、平成12年の東海豪雨で甚大な被害が発生するなど、災害との戦いの歴史があります。

区の南西部にある「相生山緑地」は、市民や地主の皆さんのご協力により、緑地内の雑木林などで自然とふれあうことができる「オアシスの森」として整備され、区民に親しまれています。また、早春には「しだれ梅まつり」で賑わう農業センターを有する「荒池緑地」には、約60ヘクタールの豊かな自然が残っています。毎年区民まつりが行なわれる「天白公園」は、里山を活かしつつ親しみやすい公園として整備されています。このような豊かな自然環境は、天白区の財産です。



2 天白区のなりたち

「天白」の由来

明治39年(1906年)、当時の平針村・植田村・弥富村・島野村の四つの村から現在の天白区の前身である天白村が誕生しました。「天白」という名称は、この地の中央部を貫流する「天白川」からとって名づけられました。

沿革

かつて米麦中心の農村であった天白村は、昭和30年4月5日に名古屋市への合併にともない昭和区に編入され、昭和区天白支所が設置されました。その後数年間は農村型のまま大きな変化はありませんでしたが、国の高度経済成長政策にともなって産業と人口の都市への集中が進み、名古屋市が中部経済圏の中核都市として整備されていくにしたがい、開発が急速に進みました。

昭和36年以降相次いで土地区画整理組合が設立され、土地区画整理事業による優良な宅地の造成により平針住宅、島田住宅、相生山団地といった大規模な集合住宅や、多数のマンションなどが供給されるとともに、昭和53年の地下鉄鶴舞線の八事・赤池間の延伸にともない、平針・原・植田の各駅のターミナルを拠点に店舗や企業が展開していきました。

特にパチンコ等の業務用機械器具製造業の出荷額は市内16区中で2番目に多く、区の代表的な産業となっています。一方で、事業所数・従業者数は市内16区中で最も少なく、全体としては住宅地としての性格が強い区であるといえます。

名古屋市への合併当時12,800人であった人口は、昭和40年代に入って飛躍的に伸び、住民サービスの向上と行政の充実のため、昭和50年2月1日に人口87,931人、世帯数27,426世帯をもって昭和区から分区独立しました。昭和51年3月には現在地に新庁舎が完成し、天白村から続いた旧庁舎から移転しました。

なつかしの天白



八事東小学校(昭和30年代)



昭和区役所天白支所旧庁舎(昭和45年頃)

2 天白区を取り巻く状況



土地区画整理事業（植田中央）（昭和50年代）



原駅バスターミナル（昭和53年）

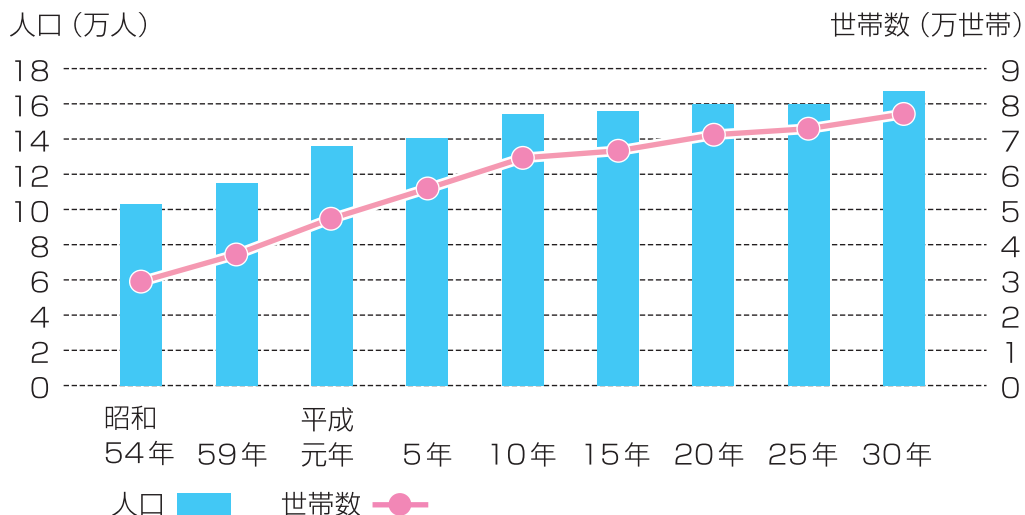
3 天白区の人口構成

● 人口の推移

日本の人口は、平成20年をピークに減少に転じていますが、天白区の人口は現在も増加を続けています。

名古屋市全体では死亡数が出生数を上回る自然減の状況にありますが、市外からの転入が転出を上回る社会増の方が大きいため、人口が増加しています。

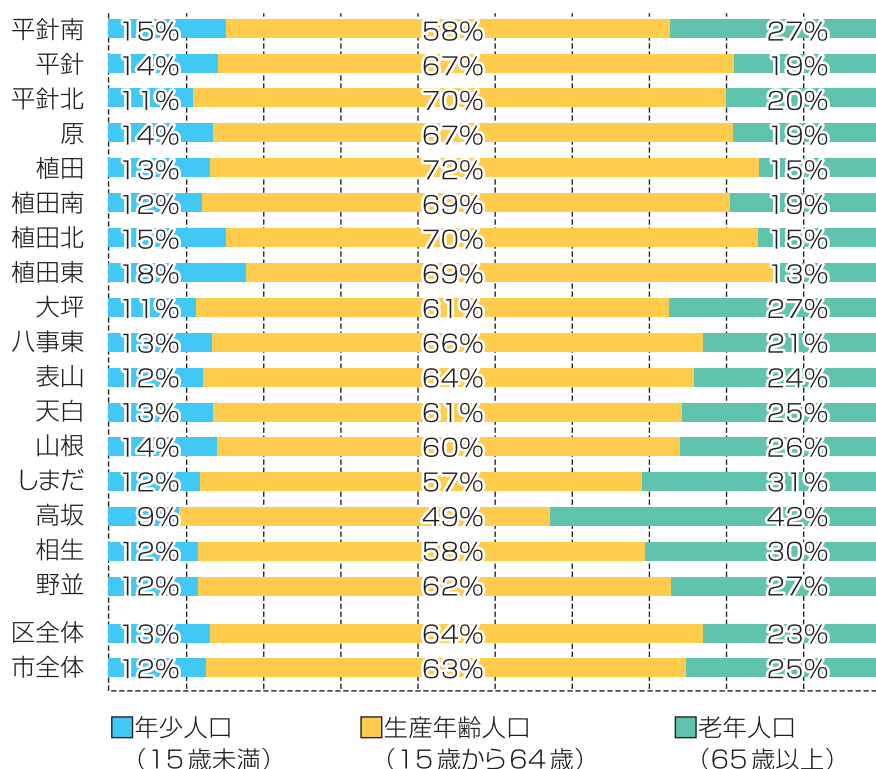
一方、天白区では、これまで出生数が死亡数を上回る自然増が続いたことと社会増が継続していることにより、人口は増え続け、令和元年10月1日時点での人口は164,522人で16区中6番目、世帯数は77,891世帯で16区中5番目となっています。



※「天白区の世帯数と人口（平成30年人口動向調査）」より作成

● 学区ごとの年齢三区分別人口

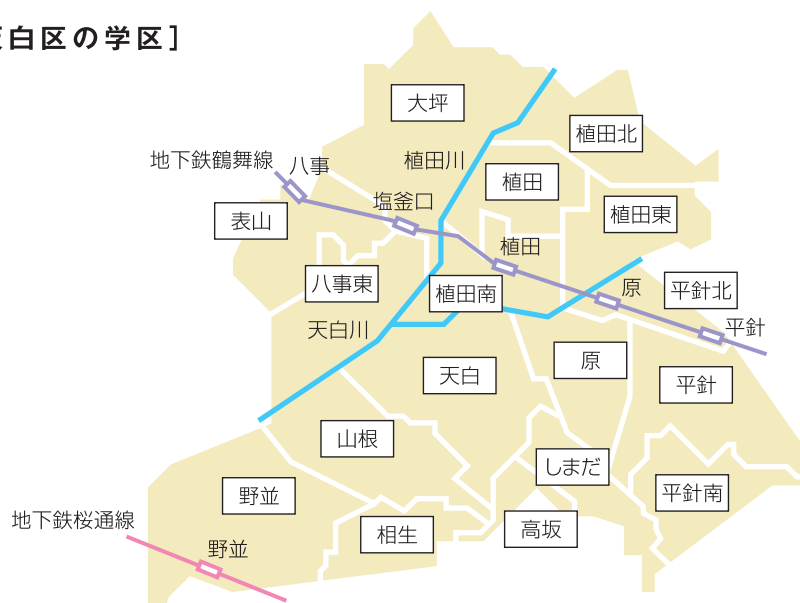
名古屋市全体の高齢化率（人口に占める65歳以上人口の割合）が25%であるのに対し、天白区の高齢化率は23%で市内16区中で低い方から4番目です。



※ 統計なごやweb版「学区別、男女別、年齢（5歳階級）別人口(平成31年4月1日時点)」より作成

※ 小数点以下第一位で四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。

〔天白区の学区〕

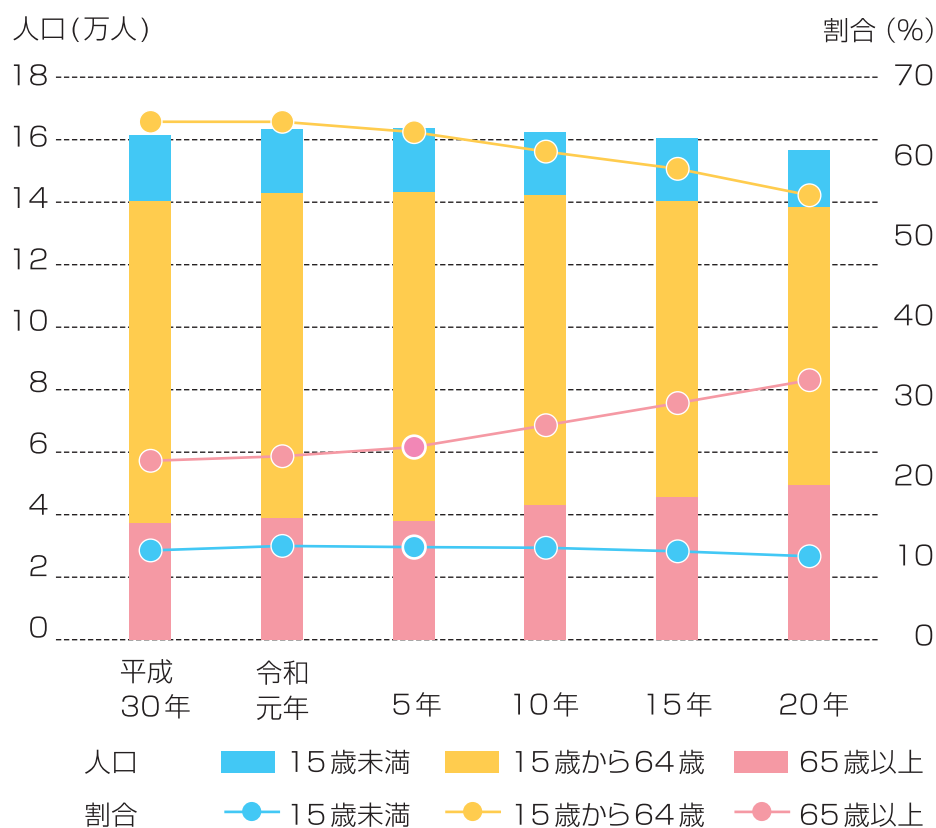


2 天白区を取り巻く状況

● 今後の見通し

天白区の人口は、近年出生数が横ばいであることに加えて、高齢化にともなう死亡数の増加により、今後は名古屋市全体と同様、自然減となることが見込まれます。短期的には社会増が自然減を上回ることで増加が続くものの、まもなく自然減が社会増を上回り、令和5年頃から減少に転じると推計しています。

人口構造については、長期的な少子化によって親となる世代の人口が減少することや、平均寿命の延伸などを背景に、今後大きく変化すると見込まれ、年少人口（15歳未満）及び生産年齢人口（15歳から64歳）が減少する一方で、老年人口（65歳以上）は一層増加すると推計しています。



※ 実績値「天白区の世帯数と人口（平成30年人口動向調査）」より作成
 推計値 名古屋市推計（平成30年10月1日時点）

4

数字からみる天白区の特徴

〔面積〕

天 白 区	名 古 屋 市	16区中順位
21.58km ²	326.50km ²	5 位

〔人 口〕

項 目	天 白 区	名 古 屋 市	16区中順位
人 口	164,522人	2,327,557人	6 位
世 帯 数	77,891世帯	1,117,913世帯	5 位
1世帯あたり人員	2.11人	2.08人	8 位
出 生 数	1,463人	19,120人	4 位
死 亡 数	1,262人	21,638人	10 位
小・中・高等学校や 大学等の在学者数	32,779人	430,275人	4 位

〔産 業〕

項 目	天 白 区	名 古 屋 市	16区中順位
事業所数	4,318か所	118,556か所	16 位
従業者数	36,822人	1,515,338人	16 位
販売農家就業人口	117人	1,241人	4 位
業務用機械器具 製造業 ^(※) の 製造品出荷額	10,302千万円	26,083千万円	2 位

※ 業務用機械器具製造業…「経済センサス活動調査産業中分類」における区分

出典「第110回 名古屋市統計年鑑 令和元年版（令和2年3月発行）」

5 アンケートの結果からみる天白区民の思い

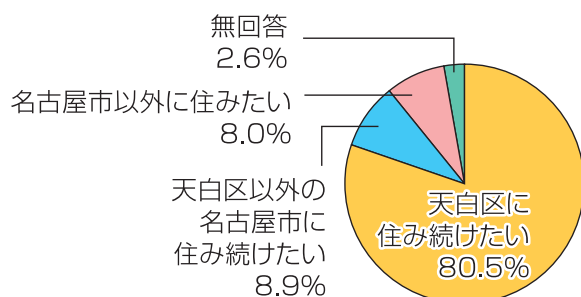
【アンケートの概要】

対象者及び回収数	対象者 1,000人（18歳以上の区民、無作為抽出） 回収数 426人（回収率42.6%）
実施期間	令和元年7月1日～31日

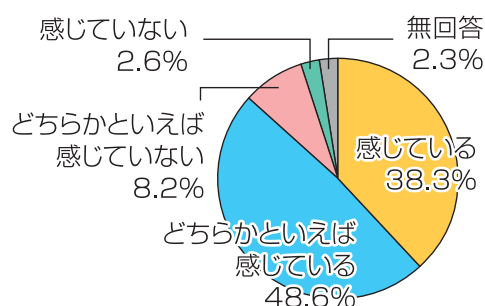
【アンケート結果の概要】

天白区への愛着

● 天白区に住みたいか

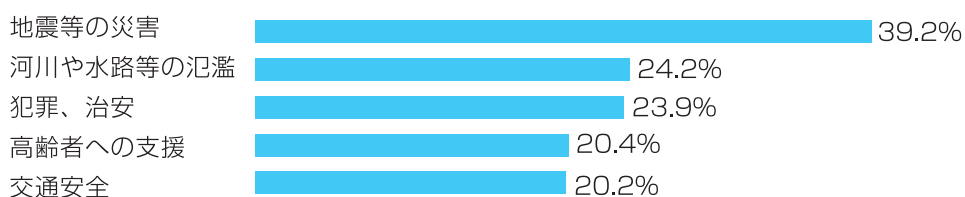


● 天白区に愛着を感じているか



お住まいの地域で心配なこと

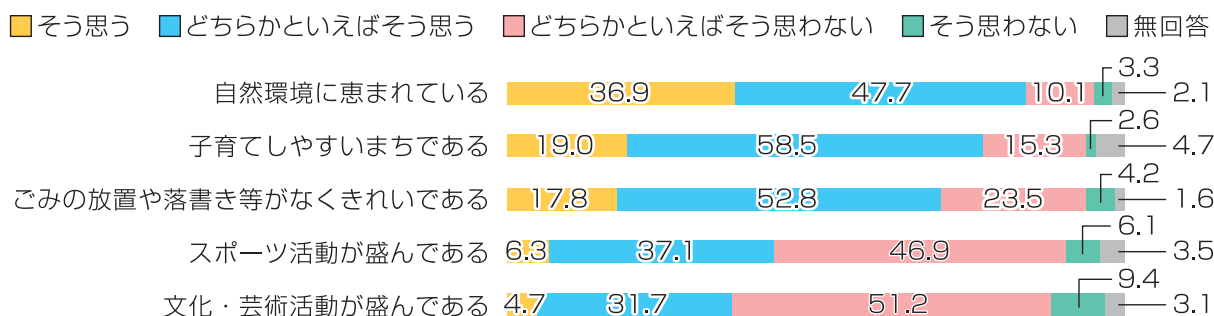
（3つまでの複数回答）



※ 全回収数に占める得票割合が上位の5項目を示しています。

天白区の印象

（単位：％）



※ 小数点以下第二位で四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。

3 めざすべきまちの姿と施策

天白区役所では、3つのめざすべきまちの姿とこれらを実現するための9つの施策を定めました。

めざすべきまちの姿		施 策
安心して暮らせるまち	災害や犯罪、交通事故に対する不安を感じることなく暮らせるまちをめざします。	施策 1 災害への備えを強力に進めます。
		施策 2 犯罪のないまちづくりを進めます。
		施策 3 交通事故のないまちづくりを進めます。
すこやかにいきいきと暮らせるまち	子どもがすこやかに育ち、高齢者・障害者をはじめ誰もがいきいきと暮らせるまちをめざします。	施策 4 妊娠期から切れ目なく子育てを支援します。
		施策 5 障害者が安心して暮らせるよう支援します。
		施策 6 高齢者がいきいきと暮らせるよう支援します。
魅力に満ちた愛着もてるまち	「自然」「歴史」「文化」を通じて魅力にあふれ、誰もが住み続けたいくなる愛着もてるまちをめざします。	施策 7 天白区の魅力を発信します。
		施策 8 地域と連携してまちづくりを進めます。
		施策 9 快適な生活環境づくりを進めます。

施策① 災害への備えを強力に進めます。

現 状

水害との戦いの歴史

天白川は上流から運ばれてきた土砂が堆積して河床が流域の田畑より高く、大昔より氾濫を繰り返してきました。中でも、明和4年（1767年）の大洪水では、飯田街道付近に集落のあった植田村に大きな被害が発生し、全戸が山腹・山麓へ移動した記録が残っています。

平成12年の東海豪雨は、2日間の総雨量が556mm（年間総雨量の約3分の1）に達し、区内で床上浸水1,000棟、床下浸水352棟の甚大な被害をもたらしました。

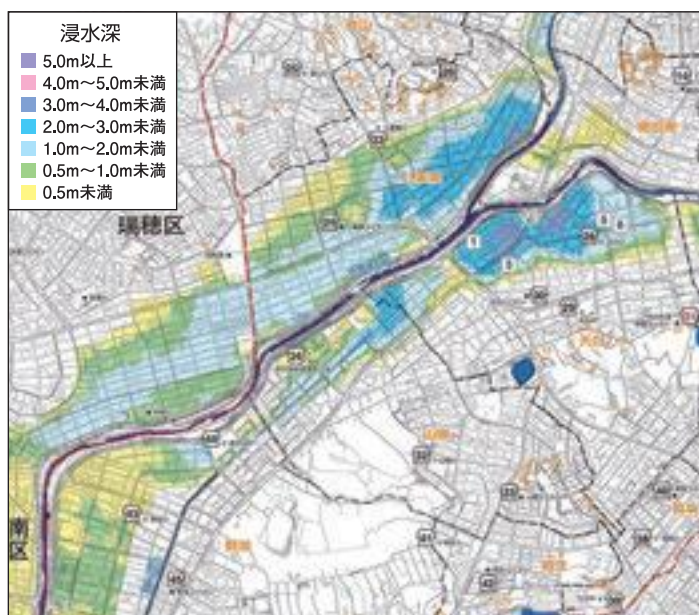
東海豪雨と同等の雨量を記録した場合でも、天白川を安全に流下させ被害を少なくすることができるよう、平成12年度から16年度にかけて、「河川激甚災害対策特別緊急事業」として川床掘削等の整備が行われました。また同時に、天白川沿川で「緊急雨水整備事業」として、雨水排水ポンプの増強や雨水調整池の建設等が行われました。

平成23年度からは「河川激甚災害対策特別緊急事業」の対象区間の上流にあたる菅田橋下流付近から植田川との合流地点までの2.3km区間について整備が行われています。

大規模災害に対する想定リスク

天白川が氾濫した場合には、区役所が位置する天白川と植田川の合流地域周辺で2.0m以上3.0m未満の浸水深を想定しています。

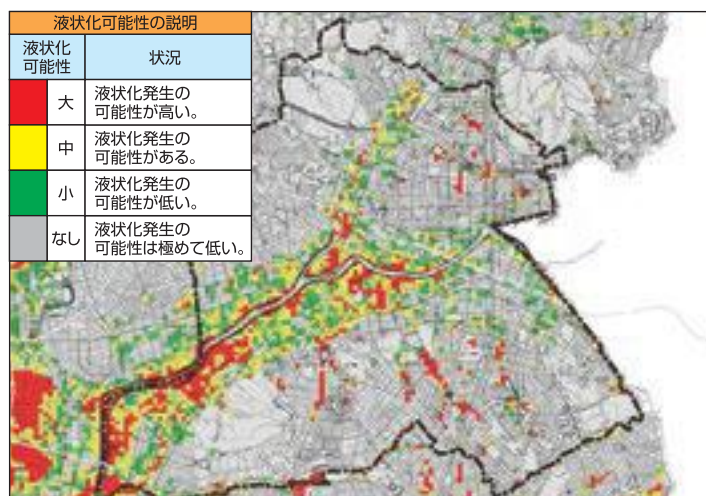
●洪水・内水ハザードマップ（「天白川が氾濫した場合（洪水）」より抜粋）



また今後30年以内に70～80%の確率で発生すると予測されている南海トラフ巨大地震では、天白区の最大死者数は30名、全壊家屋は500戸と想定しています。

さらに、あらゆる可能性を考慮した最大クラスの地震が発生した場合、区役所を含む天白川流域などでは液状化発生の可能性が大きいとされています。

●地震ハザードマップ（「あらゆる可能性を考慮した最大クラス」より抜粋）

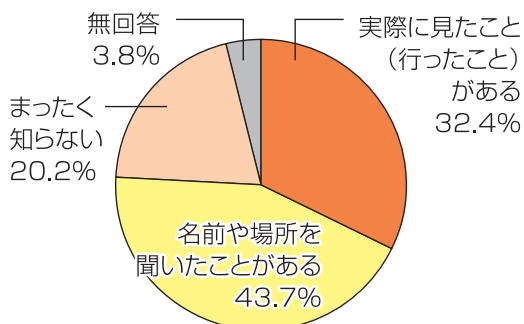


区民アンケートから見える現状

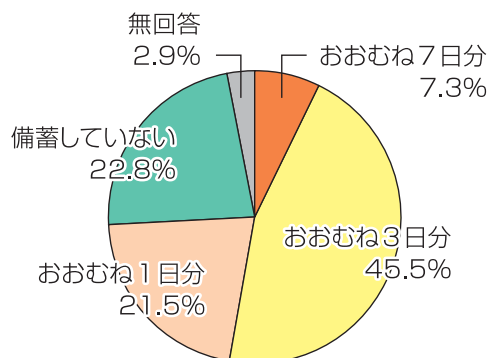
区民の防災への関心は高く、区民アンケートにおける「お住まいの地域で心配なこと」は、1位「地震等の災害」、2位「河川や水路等の氾濫」という結果でした。（2⑤「アンケートの結果からみる天白区民の思い」p.8参照）

平成28年度の区民アンケートでは、「最寄りの避難所」と「備蓄物資」についての設問に対する回答結果は下記のとおりであり、「（最寄りの避難所について）まったく知らない」、「（備蓄物資を）備蓄していない」と回答した方がそれぞれ約2割を占めており、日頃からの備えの重要性が十分に浸透していない実態が明らかになりました。

天白区内には46か所の避難所があります。あなたのお住まいから最寄りの避難所についてご存知ですか。



食料品・飲料水などについて、あなたは何日分を備蓄していますか。



※ 小数点以下第二位で四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。

施策① 災害への備えを強力に進めます。

課 題

災害応急対策では初動時の対応が重要であり、発災後、速やかに名古屋市災害対策本部天白区本部（以下「区本部」という。）を立ち上げ、避難所への支援活動などが実施できる体制を整える必要があります。

また、区本部が設置される天白区役所の立地及び築44年が経過し老朽化が進んだ庁舎について万一の被災リスクを想定し、区本部の機能を十分に確保するための対策を講じておく必要があります。

住民が居住地域の災害リスクを把握し、大規模災害から自分や家族、近隣住民の命を守ることができるよう、災害に備えることが重要です。

施 策 の 柱

区本部の強化

- ・区本部運営に関わる職員それぞれの役割や避難所の支援にかかる知識の習得、実践的な訓練の実施などにより、人材育成に努めます。
- ・区本部と関係公所（署）が連携して効果的な応急対策に取り組めるよう、日頃から連絡を密にして情報の共有を図ります。
- ・区本部機能を補完するため、区南部エリアの高台に位置する豊田工業大学に活動拠点を設けます。

地域防災力の強化

- ・家庭における食糧や水の備蓄、家具の転倒防止や家屋の耐震補強など、災害に対する備えを働きかけます。
- ・災害発生時に地域のために主体的に活動できる人材の育成、地域の災害リスクを洗い出して共有する取り組み、発災直後に近所の住民同士で行う安否確認や救助活動の訓練など、地域における互助の仕組みづくりを支援します。

成 果 指 標

指 標	現状値 令和元年度	目標値 令和5年度
災害に強いまちづくりが できていると思う区民の割合	58.3%	60%

参考

主な取り組みを紹介します。

● 中学生の防災学習



早い時期から防災について関心を持ってもらうため、中学生を対象に専門家による講演会や避難所運営ゲーム（HUG）を実施しています。

● 避難所リーダー養成講座



災害発生時に素早く避難所を開設し、円滑に自主運営していくため、リーダーの役割を担う人材を育成しています。

● 土砂災害警戒区域等防災パトロール ● 助け合いの仕組みづくり



大雨・洪水の出水期を前に、区内関係公所（署）が土砂災害警戒区域、河川・ため池などの水防注意箇所の現状把握を行っています。



高齢者や障害者など災害時に支援が必要な方の安否確認や避難誘導について地域で話し合っておく共助の仕組みづくりを支援しています。

施策② 犯罪のないまちづくりを進めます。

現 状

名古屋市取り組み

平成16年に制定された「安心・安全で快適なまちづくりなごや条例」において、名古屋市は犯罪の防止に配慮したまちづくりの推進に努めるものとしており、愛知県警察と連携して安心して暮らせる安全な名古屋市をめざしています。特に、平成24年度からは毎年度「名古屋市犯罪抑止対策」を策定し、空き巣をはじめとする住宅対象侵入盗などの政令指定都市ワースト1位返上に向けた取り組みを進めてきた結果、令和元年にそれを達成することができました。

天白区の状況

天白区では、刑法犯認知件数は10年前の約3分の1と大きく減少しています。一方、特殊詐欺については新たな手口の発生などにより、年による増減が大きくなっています。

住宅対象侵入盗、自動車盗、特殊詐欺はいずれも身の回りで起こる犯罪であり、区民の体感的な治安を悪化させる要因の一つになっています。

区民アンケートの結果においては、お住まいの地域で心配なこととして「犯罪、治安」を挙げた区民の割合が多くなっています。(2⑤「アンケートの結果からみる天白区民の思い」p.8 参照)

●天白区の犯罪情勢

区 分		平成20年	平成25年	平成28年	平成30年
刑法犯認知件数		3,115件	2,004件	1,311件	1,025件
	住宅対象侵入盗	118件	132件	74件	48件
	自動車盗	75件	64件	18件	21件
	特殊詐欺	30件	12件	29件	12件

課 題

被害の多い地域や新たな手口など、特殊詐欺をはじめとする昨今の犯罪情勢に応じた防犯対策を広報・啓発する必要があります。

また、地域が一体となって犯罪を起こさせにくいまちづくりを進めていくことが重要です。

施策の柱

地域の自主防犯活動の促進

犯罪に対する知識の向上と情報の共有により、区民一人ひとりの防犯意識の向上を図るとともに、警察署はじめ関係機関と連携し、地域が行う防犯の取り組みを支援します。

成果指標

指標	現状値 令和元年度	目標値 令和5年度
治安がよいと思う区民の割合	77.2%	80%

参考

主な取り組みを紹介します。

● 防犯パトロール講習会



地域住民が警察官OBと一緒に、実際にパトロールしながら、防犯のポイントを学んでいます。

● ナンバープレート盗難防止ネジ 取り付けキャンペーン



盗まれたナンバープレートが犯行車両に使われることを防止するため、ネジを取り付けるキャンペーンを行っています。

施策③ 交通事故のないまちづくりを進めます。

現 状

名古屋市状況

交通安全対策の総合的かつ計画的な推進を図るため、昭和45年に「交通安全対策基本法」が制定されました。名古屋市においても昭和46年度以降5年ごとに「交通安全計画」を策定し、関係機関や団体等において交通安全対策を推進しています。

これまでの取り組みにより、市内の人身事故発生件数及び交通事故死者数は着実に減少し、令和元年の死者数は33人で前年より22人減りました。また、令和元年の愛知県における交通事故死者数は前年から33人減って156人となり、16年連続の全国ワースト1位を返上することができました。

天白区状況

天白区では平成30年には4人、令和元年には2人の命が交通事故によって失われました。

交通事故死傷者数は天白区においても、この10年で4割以上減少しています。しかし、高齢者や歩行者の死傷者数の減少率はそれを大きく下回っています。

●天白区の交通事故死傷者数

区 分		平成20年	平成30年	減少率
交通事故死傷者数		1,204人	683人	△43.3%
年齢層別	子ども(0～15歳)	77人	43人	△44.2%
	若者(16～24歳)	250人	102人	△59.2%
	一般(25～64歳)	756人	436人	△42.3%
	高齢者(65歳～)	121人	102人	△15.7%
当事者種別	歩行者	99人	72人	△27.3%
	自転車	230人	122人	△47.0%
	二輪車	153人	40人	△73.9%
	四輪車	722人	449人	△37.8%

課 題

交通事故の被害者にも加害者にもならないようにするため、区民一人ひとりの交通安全に対する意識を高める必要があります。

施 策 の 柱

交通安全啓発活動の推進

地域や警察署と連携して、学校や交通量の多い交差点などでの交通安全啓発活動を推進します。

成 果 指 標

指 標	現状値 令和元年度	目標値 令和5年度
自転車と歩行者のそれぞれが、安全で快適に通行していると思う区民の割合	39.5%	42%

参考

主な取り組みを紹介します。

● 交通安全啓発活動



春・夏・秋・年末の年4回、交通安全市民・県民運動において、警察・地域と一体となってパトロールやキャンペーンを行っています。

● 自転車安全利用促進キャンペーン



区内の高校や地下鉄の駅において、行政・学校・地域等が連携して、自転車利用者を対象にマナー向上を呼びかけています。

施策④ 妊娠期から切れ目なく子育てを支援します。

現 状

子育て

近年、核家族化や地域の関わりの希薄化等により子育て家庭を取り巻く環境は大きく変化し、保護者の子育ての負担が増すとともに、家族形態や親の働き方の変化にともなって、子育て支援のニーズが多様化しています。

平成29年の天白区の出生数は1,463人と市内で4番目に多く、15歳未満の年少人口が占める割合は全市の12%を若干上回る13%となっています。

区民アンケートの結果において、天白区の印象について、「子育てしやすいまちである」と答えた方が多くいました。(2⑤「アンケートの結果からみる天白区民の思い」p.8参照)

● 天白区の出生数

平成15年	平成20年	平成25年	平成29年
1,589人	1,523人	1,454人	1,463人

児童虐待

児童虐待に関する相談件数は大幅な増加傾向にあり、平成30年度、市内では過去最高の3,394件となりました。天白区においてもその傾向は同様です。

青少年

近年、刑法犯少年の検挙や不良行為少年の補導は減少傾向にあり、天白区においても、同様の傾向にあります。しかし一方で、青少年を取り巻く社会環境は、インターネットを用いる情報関係機器の普及により大きく変化しており、特に、青少年が早い時期からスマートフォン等を所有し、気軽に様々な情報に触れたり発信したりすることで、犯罪やいじめ等に巻き込まれてしまうケースが増えています。

課 題

妊娠中や子育て中の親の不安、悩み、負担感や孤立感の解消を図り、安心して子育てができるよう、子育て家庭を総合的に支援することが必要です。

また、青少年については、地域の中であたたかく見守られ、健全に成長するための環境づくりが必要です。

施 策 の 柱

妊娠期からの子育て支援

妊娠期、出産期、子育て期を通じて、相談・援助の充実や親同士が交流する機会の提供など、切れ目のない支援を行います。

子育てにかかわる関係機関・団体の連携による子育て支援

子育て支援のニーズに対し、保育所などの区内にある関係機関、子育て支援を行うNPOやボランティア団体などと連携し、適切な情報提供や相談・支援等につなぐことができる環境づくりを進めます。

児童虐待防止

社会全体で児童虐待を防止するための啓発を行うとともに、育児不安など子育てに悩む保護者への相談・支援を行います。

青少年健全育成

情報化の著しい進展など青少年を取り巻く最近の状況を踏まえながら、「地域の子どもは地域で守り育てる」を合言葉に、啓発や見守りを通じて、青少年が犯罪等に巻き込まれない環境づくりを進めます。

成 果 指 標

指 標	現状値・令和元年度	目標値・令和5年度
子育てしやすいまちであると思う区民の割合	77.5%	83%

参考

主な取り組みを紹介します。

● 天白おやこ子育て広場



親が幼い子どもと一緒に楽しみながら相談や交流ができるイベントを関係団体等と連携して開催しています。

● 子ども会キャンプ



自然体験などを通じて異なる年齢の仲間たちとの交流を深めています。

施策⑤ 障害者が安心して暮らせるよう支援します。

現 状

障害者を取り巻く状況

障害のある方が地域で安心して生活できるよう、名古屋市では様々な障害福祉サービスを提供しており、支援が必要な方に必要なサービスが届くように、区役所と障害者基幹相談支援センターなどの関係機関は日頃から連携を図っています。

障害者手帳は障害の内容やその程度を示し、障害のある方が福祉制度を利用する際に必要となるものです。天白区において、身体障害者手帳・愛護手帳・精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方は年々増加しています。

● 天白区の手帳所持者数

種 別	平成20年	平成25年	平成30年
身体障害者手帳	4,332人	4,364人	4,615人
愛護手帳	756人	942人	1,167人
精神障害者保健福祉手帳	787人	1,337人	1,886人

名古屋市では、障害や障害者に対する理解促進のための広報啓発活動や、「障害のある人もない人も共に生きるための障害者差別解消推進条例」、「障害者虐待の防止、障害者の養護者に対する支援等に関する法律」に基づく取り組みを行っていますが、今なお、誤解や偏見により障害者が十分に社会参加できているとはいえない現状があります。

● 差別経験があると答えた人の割合

区 分	全 体	身体障害	知的障害	精神障害	発達障害	高次脳機能障害	難病等
割 合	18.7%	14.0%	27.3%	35.9%	44.4%	34.2%	9.8%

※ 平成28年度実施 名古屋市障害者基礎調査（障害当事者や難病等の方を対象に、生活実態や現行施策の評価、サービスの利用状況、今後のサービスの利用意向、施策ニーズ等について調査したもの。）

課 題

地域において、周囲の理解不足から障害者の自立や社会参加が妨げられないように、障害や障害者に対する理解を促進する必要があります。

また、障害者差別の解消や障害者虐待の防止には、関係機関と連携した対応が求められます。

施 策 の 柱

障害者自立支援活動の推進

障害福祉関係者と連携し、障害や障害者に対する理解を促進するための広報・啓発を行うとともに、障害者差別の解消や障害者虐待の防止に努めます。

成 果 指 標

指 標	現状値 令和元年度	目標値 令和5年度
障害者にやさしいまちであると思う区民の割合	47.9%	52%

参考

主な取り組みを紹介します。

● 顔のみえるアート展てんぱく



障害のある方が制作したアート作品を展示して、創作意欲の向上や新たな才能の発掘をめざすとともに、地域交流の機会としています。

● マーガレットマルシェ



区役所1階の情報ひろばにおいて毎日授産製品を販売して、障害者の就労を支援しています。

施策⑥ 高齢者がいきいきと暮らせるよう支援します。

現 状

高齢化

天白区では、65歳以上の高齢者の割合が23%で、市全体の25%より若干低い状況にあります。令和7年には団塊の世代が75歳以上となり、今後本格的な超高齢社会を迎えるとともに、核家族化による家族形態の変化にともない、単身世帯や高齢者のみ世帯の増加が進んでいます。

● 天白区の高齢者世帯

区 分	平成23年度	平成27年度	平成31年度
65歳以上の単身世帯数	3,780世帯	5,363世帯	6,417世帯
高齢者のみ世帯数	1,308世帯	1,650世帯	2,002世帯

認知症高齢者

平成29年版高齢社会白書によると、平成24年の認知症高齢者数は全国で462万人と、65歳以上の高齢者の約7人に1人（有病率15.0%）であり、令和7年には約5人に1人になるとの推計もあります。

区役所では、いきいき支援センターの職員等と協力して、認知症初期集中支援チームにより初期の認知症高齢者の支援を行っています。

健康寿命

名古屋市民の平成28年の「平均寿命」は男性80.75歳、女性86.76歳ですが、一方で介護や人の手を借りずに健康的な日常生活が送れる期間である「健康寿命」は、男性72.47歳、女性75.86歳となっています。

平均寿命の延伸により高齢者が増加し、介護保険サービスを必要とする要支援者や要介護者も増加しています。区役所では区民に対して適切にサービスの説明を行い、必要なサービスの利用につなげています。

● 天白区の65歳以上の要支援・要介護者数

平成22年度	平成26年度	平成30年度
4,468人	5,854人	6,586人

課 題

地域住民や関係機関と連携して、高齢者の社会的孤立を解消することが必要です。

認知症高齢者が地域で生活していくため、認知症に対する理解を促進するとともに、認知症高齢者を介護する家族の負担を軽減することが求められています。

また、健康づくりによって、平均寿命と健康寿命の差（男性8.28歳、女性10.9歳）を縮めることが必要です。

施 策 の 柱

高齢者が地域で安心して暮らすための支援

高齢者が住み慣れた地域でいつまでも安心して暮らせるように、自身の将来への備えを促すとともに、地域住民と関係機関の連携を進めます。

認知症になっても安心して暮らせるまちづくりの推進

認知症高齢者の早期発見や見守りのネットワーク作り、介護する家族の支援などの取り組みを総合的に進めます。

高齢者の生きがいつくりと介護予防の推進

高齢者がいつまでも元気で暮らせるように、人生に活力を与える生きがいや仲間づくりをサポートし、地域住民の主体的な健康づくりを支援します。

成 果 指 標

指 標	現状値・令和元年度	目標値・令和5年度
生きがいや楽しみを持って生活できると思う高齢者の割合	64.4%	81%

参考

主な取り組みを紹介します。

● みんなの元気フェスタ



介護・医療に関する情報を広く紹介するイベントを開催しています。

● 健康づくり隊



地域における高齢者の健康づくりを支援しています。

施策⑦ 天白区の魅力を発信します。

現 状

自然・歴史・農

天白区には、相生山緑地、荒池緑地、天白公園などの緑地や、貴重な動植物が生息する島田湿地、天白川など、良好な自然環境が多く残されています。また、区内には鎌倉街道や駿河街道などの史跡や神社仏閣が点在しています。

また、天白区はかつて広大な農地を抱える地域で、「八事五寸にんじん」「くりあじかぼちゃ」などの特産野菜をはじめとした多くの農作物が生産されていました。

近年は、区画整理事業の進展にともない市街化が進み、農家世帯数、農地面積とも減少していますが、現在も、農家世帯数は、港区、中川区、緑区に次いで4番目に多くなっています。

● 天白区の農家世帯数、農地面積

区 分	平成12年	平成27年	減少率
農家世帯数	122世帯	78世帯	△36.1 %
農地面積	104 ha	48 ha	△53.8 %

※農業センサス

文化・スポーツ

区民アンケートの結果では、「文化・芸術活動が盛んである」と思う区民、及び「スポーツ活動が盛んである」と思う区民はそれぞれ約4割となっています。(2⑤「アンケートの結果からみる天白区民の思い」p.8参照)

かぼっち

平成26年度に区制40周年を記念して天白区のマスコットキャラクター「かぼっち」が誕生しました。その認知度は年々高まっており、区民の天白区への愛着を高めるのに貢献しています。('かぼっち'はp.31で紹介しています。)

課 題

区内に残っている歴史・文化的資源や河川・緑地などの貴重な自然を活用し、天白区独自の魅力として区民をはじめ多くの方に知っていただくことで、区の魅力を発信していくことが必要です。

生産農家、農地面積がともに減少する中で、区民が「農」に触れ合う機会が少なくなっています。また、区民が気軽に文化・芸術活動やスポーツに親しむことのできる環境づくりが必要です。

施策の柱

天白の魅力発信

区民が身近な自然や歴史・文化的資源を大切にし、さらに育む活動につながるよう意識醸成を図ります。

生産者である農家と消費者である区民が交流し、天白区特産野菜を栽培し味わうなど、「農」を体験できる機会を提供します。

文化・スポーツの推進

地域の文化団体・スポーツ団体などとの協働を進め、文化・芸術活動やスポーツ活動に親しむことができる環境づくりに取り組みます。

天白区のPR活動

天白区マスコットキャラクター「かぼっち」を活用し、区の情報を発信します。

成果指標

指標	現状値 令和元年度	目標値 令和5年度
天白区に愛着を感じている区民の割合	86.9%	90%

参考

主な取り組みを紹介します。

● 史跡散策ウォーキング



ガイドボランティアの案内で区内の史跡を巡るイベントを行っています。

● てんぱく親子スポーツフェスタ



各種スポーツ団体等と連携し、親子で参加できるスポーツ体験イベントを開催しています。

施策⑧ 地域と連携してまちづくりを進めます。

現 状

区役所

区役所は、市民に最も身近な行政機関であり、地域活動を総合的・横断的に支える役割を果たしています。多様化・複雑化する地域の課題に行政のみで対応していくことは困難であり、地域住民や地域団体、大学、企業などと協力し合いながら行政サービスを提供しています。

町内会・自治会

町内会・自治会は、町内などの地域住民が自主的につくりあげる住民自治組織です。住民に一番身近な地域団体として住民同士の顔の見える関係づくりに取り組んでいるほか、より住みやすいまちにするために活動しています。

近年、少子高齢化の進行、単身世帯の増加、価値観の多様化など社会状況の変化にともなって住民同士のつながりやまとまりが希薄になっていることから、町内会・自治会加入率は減少傾向にあります。平成30年度の加入率をみると、名古屋市全域では72.2%ですが、天白区においては57.0%となっています。

● 天白区及び名古屋市の町内会・自治会加入率

区 分	平成24年度	平成28年度	平成30年度
区	65.7%	58.5%	57.0%
市	79.4%	74.4%	72.2%

大学連携

天白区では平成26年に名城大学と連携・協力に関する協定を締結したことに始まり、その後、平成27年には東海学園大学、平成30年には豊田工業大学と同様の協定を締結しました。

天白区役所と大学は、地域社会の発展に寄与することを目的として、防災、まちづくり、生涯学習、文化、福祉など多様な分野で相互に連携・協力しています。

課 題

地域の課題の解決や地域社会の発展には、区民が町内会・自治会の活動に広く参加することが求められるとともに、行政が地域団体、NPO、大学や企業など多様な主体との連携を深め、地域活動につなげていく必要があります。

施策の柱

町内会・自治会加入促進への支援

「町内会・自治会」加入者が増加するよう、地域の取り組みを支援します。

地域活動・市民活動への支援

天白区に愛着を持ち、まちづくりに寄与しようという地域団体、NPOや企業などと積極的に連携し、それぞれの団体が持つ能力や資源を活かした活動を支援します。

地域の大学との連携・協力

各大学の専門分野に加えて、防災、福祉など多様な分野での連携・協力を進めます。

成果指標

指標	現状値 令和元年度	目標値 令和5年度
地域の住民によるまちづくりが 活発に行われていると思う区民の割合	52.4%	56%

参考

主な取り組みを紹介します。

● 区民まつり



毎年10月第4日曜日に天白公園において、地域のさまざまな団体と共につくりあげる天白区で一番大きなまつりです。

● 天白カルタ



大学生が天白区にまつわる事柄を題材にしたカルタを作成し、地域での活用につなげています。

施策⑨ 快適な生活環境づくりを進めます。

現 状

生活環境

名古屋市では昭和34年から、市民とともに清潔で住みよいまちづくりを進めるため、「町を美しくする運動」を提唱してきました。平成16年に制定された「安心・安全で快適なまちづくりなごや条例」では、すべての市民が自分のまちは自分で良くするという気持ちをもって主体的にまちづくりに関わるという基本理念が掲げられています。天白区では地域住民の努力により、おおむね良好な環境が維持されています。

空家

近年、高齢化の進行にともない空家が増加しており、天白区内においても適切に管理されていない空家が地域住民の生活環境に影響を及ぼす事例が出てきています。

● 天白区の空家戸数

平成20年	平成25年	平成30年
7,920戸	12,450戸	10,710戸

※住宅・土地統計調査

ペット

核家族化や高齢化が進む今日では、犬や猫などのペットを人生のパートナーとして飼う人が増えています。ペットと快適に暮らすためには、近隣や周囲の人々に迷惑をかけないようにする心配りが大切です。

天白区では、人と犬猫が共生できるまちづくりをめざし、犬猫の飼主に対して迷惑・危害防止の啓発を行っており、犬猫に関して寄せられる苦情件数は減少傾向にあります。

● 天白区の犬猫の苦情件数

区 分	平成26年度	平成28年度	平成30年度
犬猫の苦情件数	144件	127件	104件
環境衛生の保持（犬猫のフン尿）	82件	84件	76件
適正な飼養（犬猫の鳴き声）	35件	28件	20件
危害防止（犬の放し飼い）	27件	15件	8件

課 題

快適な生活環境を維持するためには、地域での取り組み、空家所有者等による適切な管理やペットの飼主のマナー向上が必要です。

施 策 の 柱

環境美化の推進

- ・一人ひとりのマナーやルールを守る意識を醸成するとともに、地域が一体となって行う清掃活動を支援し、まちの美化を促進します。
- ・空家等の管理に関する広報・啓発を行うとともに、適切な管理の行われていない空家等について必要な措置を講じます。
- ・犬猫の飼主に対する適正な飼い方の啓発に取り組みます。

成 果 指 標

指 標	現状値 令和元年度	目標値 令和5年度
環境美化には区民自らが行動することが必要だと思う区民の割合	90.4%	94%

参考

主な取り組みを紹介します。

● 天白区クリーンウォーキング



「環境デーなごや」の地域行事として、地域住民・企業・学生ボランティア総ぐるみで、清掃活動を行っています。

● ペットのマナー良くし隊



犬を散歩させる飼主に対して啓発用資材を配布しながら巡回指導を実施しています。

4 施策の推進にあたって

天白区のめざすべきまちの姿の実現に向けた各施策を推進するにあたって、各分野に共通する取り組みとして「区民に信頼される区役所づくり」、「区民ニーズや地域課題の把握」、「区政に関する広報・情報提供」を進めます。

1 区民に信頼される区役所づくり

- (1) 区将来ビジョンの進捗管理を毎年度の区政運営方針で行うことで、めざすべきまちの姿の実現に向けた施策を着実に推進します。
- (2) 業務に関する知識や接遇の向上はもとより、フロアスタッフによる案内や円滑な手続きにより、来庁者の満足度を高めます。
- (3) 自動販売機の設置や広告の掲出などにより区の独自財源を確保し、区役所庁舎の環境改善を行って、区民サービスを向上させます。

2 区民ニーズや地域課題の把握

- (1) 区民会議や区民アンケートを通じて、ご意見や日頃感じている区の課題についてお聴きし、区政運営に活かします。
- (2) 「明日への提案箱」や「窓口アンケート」により、来庁者からのご意見・ご提案をお聴きし、よりよい区役所づくりに活かします。
- (3) 学区担当の職員が、学区の会議・行事に出席して、地域とのコミュニケーションを密にし、地域課題やニーズの把握に努めます。

3 区政に関する広報・情報提供

- (1) 区民ニーズに沿った読みやすい紙面の「広報なごや 区版」により、情報提供に努めます。
- (2) 区ウェブサイトやSNSを通じて施策や区役所行事の情報発信を行います。

「かぼっち」を紹介します!



頭は「くりあじかぼちゃ」、体は「八事五寸にんじん」、いずれも天白区の特産野菜をモチーフにしています。胸元には「八事の蝶々」をつけています。「八事の蝶々」は明治から昭和のはじめにかけて寺社の門前など、八事地域で作成・販売されていた竹と和紙を用いた郷土玩具です。

性別 どちらでもない

誕生日 平成26年7月16日(このデザインに決まった日)

血液型 ビタミンA型
かぼちゃとにんじんにはビタミンAがいっぱい!!

性格 明るく、元気いっぱい、好奇心旺盛



ホッとするまち「好きだよ、天白。」

天白区将来ビジョン

発行・編集 天白区区政部企画経理室

〒468-8510 名古屋市天白区島田二丁目201番地

電話 052-807-3953

FAX 052-801-0826

ウェブサイト <http://www.city.nagoya.jp/tempaku/>

メールアドレス a8073951@tempaku.city.nagoya.lg.jp

発行年月 令和2年5月

※ この冊子は、古紙パルプを含む再生紙を使用しています。